



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年1月30日

上場取引所 東

上場会社名 東洋水産株式会社

コード番号 2875 U R L <https://www.maruchan.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 住本 憲隆

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 早川 崇 T E L 03-3458-5246

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	402,636	3.6	64,568	6.1	70,812	4.9	53,430	5.0
2025年3月期第3四半期	388,782	—	60,878	—	67,531	—	50,876	—

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 67,260百万円 (8.7%) 2025年3月期第3四半期 61,870百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	541.02	—
2025年3月期第3四半期	505.70	—

(注) 2025年3月期第3四半期は会計方針の変更による遡及適用後の数値を記載しております。

2025年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率は、会計方針の変更に伴い遡及適用を行ったため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	629,242	517,397	80.2
2025年3月期	594,978	493,644	80.9

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 504,482百万円 2025年3月期 481,192百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 —	円 銭 80.00	円 銭 —	円 銭 120.00	円 銭 200.00
2026年3月期	—	80.00	—	120.00	200.00
2026年3月期(予想)				120.00	200.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	535,000	4.4	80,000	4.6	87,500	2.7	66,000	3.4

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 会計方針の変更に伴い遡及適用を行ったため、対前期増減率は、遡及適用後の前期数値を用いて算出しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有
新規 一社 (社名) 一、除外 1社 (社名) 株式会社東京商社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | : 有 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| ④ 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

- | |
|---------------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） |
| ② 期末自己株式数 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） |

2026年3月期 3 Q	110,881,044株	2025年3月期	110,881,044株
2026年3月期 3 Q	13,538,633株	2025年3月期	11,254,424株
2026年3月期 3 Q	98,758,992株	2025年3月期 3 Q	100,605,525株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、緩やかに回復しておりますが、アメリカの通商政策等による不透明感がみられる状況にありました。先行きにつきましては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待されますが、物価上昇やアメリカの政策動向及び金融資本市場の変動等の影響を注視する必要があります。

このような状況の中、当社グループは「Smiles for All. すべては、笑顔のために。」という企業スローガンの下で「食を通じて社会に貢献する」「お客様に安全で安心な食品とサービスを提供する」ことを責務と考え取り組むとともに、厳しい販売競争に対応するため、より一層のコスト削減並びに積極的な営業活動を推進してまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は402,636百万円（前年同四半期比3.6%増）、営業利益は64,568百万円（前年同四半期比6.1%増）、経常利益は70,812百万円（前年同四半期比4.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は53,430百万円（前年同四半期比5.0%増）となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間末の為替換算レート（期中平均レート）は、148.75円/米ドル（前第3四半期連結累計期間末は、152.57円/米ドル）であります。

また、第1四半期連結会計期間より、在外子会社等の収益及び費用は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算する方法から、期中平均相場により円貨に換算する方法に変更したため、遡及適用後の数値で前年同四半期比較を行っております。（会計方針の変更の詳細はP.8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更に関する注記）」をご覧ください。）

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

水産食品事業は、積極的な営業活動により外食向け商品を中心に販売数量が伸長いたしました。その結果、売上高は25,079百万円（前年同四半期比8.2%増）、セグメント利益は、価格改定を実施した一部の商品の利益率が改善したことに加え、利益率の高い商品の構成比が高まったこと等により1,330百万円（前年同四半期比67.9%増）となりました。

海外即席麺事業は、米国では販売数量は効果的な販売促進を実施することができず低調な推移となりましたが、7月に価格改定を実施したことにより増収となりました。メキシコでは4月に実施した価格改定後もカップ麺、袋麺ともに好調に推移いたしました。その結果、売上高は181,120百万円（前年同四半期比3.0%増）、セグメント利益は、包材の紙カップ化や輸入原材料の高騰による原材料費等の増加を価格改定等でカバーし、45,718百万円（前年同四半期比6.5%増）となりました。

国内即席麺事業は、カップ麺では価格改定の影響を受け、一部の商品は低調な推移となりましたが、主力商品の「赤いきつねうどん」「緑のたぬき天そば」が堅調だったほか、「マルちゃん焼そば」も想定以上に伸長いたしました。袋麺では「マルちゃん正麺」シリーズ、「マルちゃんZUBAAAN!」シリーズが堅調に推移し、増収となりました。その結果、売上高は80,133百万円（前年同四半期比1.5%増）、セグメント利益は、売上の拡大や、広告宣伝費等の減少により8,664百万円（前年同四半期比0.8%増）となりました。

低温食品事業は、生麺では発売50周年となる「マルちゃん焼そば3人前」シリーズにてキャンペーンやイベント等の販売促進に加え、期間限定品の発売によりシリーズの活性化を図り、伸長いたしました。その他、「玉うどん3食入」シリーズも節約志向による需要拡大等を受け、伸長いたしました。冷凍食品では冷凍調理品や冷凍野菜関連商品は4月に、冷凍麺は6月に実施した価格改定の影響を受け、一部の商品では低調な推移となりましたが、主力商品の冷凍麺では引き続き産業給食や外食・行楽関係向けの商品が堅調に推移いたしました。その結果、売上高は47,168百万円（前年同四半期比3.5%増）、セグメント利益は、運送費や動力費等の増加はあったものの、売上の拡大等により6,613百万円（前年同四半期比6.7%増）となりました。

加工食品事業は、米飯商品では米価の高騰によりパックごはんの需要が伸長いたしました。また、フリーズドライ商品等も堅調に推移し、増収となりました。その結果、売上高は17,682百万円（前年同四半期比5.8%増）、セグメント損失は、売上の拡大等の効果はあったものの、原材料費や減価償却費等の増加により443百万円（前年同四半期はセグメント利益346百万円）となりました。

冷蔵事業は、円安の影響により輸入品の保管等が減少したものの、冷凍食品の荷動きが安定的に推移いたしました。また、アイスクリーム等の季節商品の取扱いが堅調に推移したこととともに、関連する運送、付帯作業等が増収となりました。その結果、売上高は20,227百万円（前年同四半期比4.6%増）、セグメント利益は、物価上昇等の影響による人件費や動力費等の増加はあったものの、売上が堅調に推移したことにより2,389百万円（前年同四半期比30.2%増）となりました。

その他は、主に弁当・惣菜事業であります。売上高は31,224百万円（前年同四半期比6.9%増）、セグメント利益は1,064百万円（前年同四半期比17.0%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は、前連結会計年度末と比べ総資産は34,264百万円増加し、629,242百万円、純資産は23,752百万円増加し、517,397百万円となりました。この主な変動要因は、以下のとおりであります。

資産は、主に現金及び預金が減少しましたが、受取手形、売掛金及び契約資産、建物及び構築物が増加しました。負債は、主に未払費用、繰延税金負債が増加しました。純資産は、主に自己株式の取得に伴う自己株式の増加により減少しましたが、利益剰余金、為替換算調整勘定が増加しました。

この結果、自己資本比率は80.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想に関する事項につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績が想定していた範囲内で推移しているため、2025年10月31日に発表しました見通しを変更しておりません。今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流动資産		
現金及び預金	257,470	233,415
受取手形、売掛金及び契約資産	63,991	81,546
商品及び製品	18,455	19,075
仕掛品	460	481
原材料及び貯蔵品	20,029	26,594
その他	7,126	7,770
貸倒引当金	△811	△644
流动資産合計	366,721	368,237
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	67,826	81,583
機械装置及び運搬具（純額）	46,205	51,379
土地	35,812	35,886
リース資産（純額）	1,246	1,117
建設仮勘定	31,342	36,065
その他（純額）	1,164	1,438
有形固定資産合計	183,599	207,471
無形固定資産		
のれん	670	616
ソフトウエア	1,761	2,235
ソフトウエア仮勘定	2,881	5,261
その他	266	269
無形固定資産合計	5,580	8,383
投資その他の資産		
投資有価証券	35,123	41,394
繰延税金資産	1,051	998
退職給付に係る資産	62	60
その他	2,839	2,697
投資その他の資産合計	39,076	45,151
固定資産合計	228,256	261,005
資産合計	594,978	629,242

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流动負債		
支払手形及び買掛金	34,959	37,051
短期借入金	442	445
リース債務	288	298
未払費用	27,119	30,000
未払法人税等	4,088	5,543
役員賞与引当金	251	100
資産除去債務	—	7
その他	6,149	7,798
流动負債合計	73,300	81,245
固定負債		
リース債務	2,671	2,514
繰延税金負債	5,558	8,429
役員退職慰労引当金	316	312
退職給付に係る負債	15,807	15,769
資産除去債務	199	201
その他	3,480	3,371
固定負債合計	28,033	30,599
負債合計	101,333	111,845
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,969	18,969
資本剰余金	22,940	22,942
利益剰余金	411,423	444,998
自己株式	△32,181	△55,683
株主資本合計	421,151	431,226
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13,021	17,214
繰延ヘッジ損益	△3	34
為替換算調整勘定	45,909	54,741
退職給付に係る調整累計額	1,113	1,265
その他の包括利益累計額合計	60,040	73,255
非支配株主持分	12,452	12,915
純資産合計	493,644	517,397
負債純資産合計	594,978	629,242

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	388,782	402,636
売上原価	270,453	279,011
売上総利益	118,328	123,625
販売費及び一般管理費	57,450	59,056
営業利益	60,878	64,568
営業外収益		
受取利息	5,299	4,773
受取配当金	721	812
持分法による投資利益	160	153
雑収入	819	911
営業外収益合計	7,000	6,650
営業外費用		
支払利息	155	148
貸倒引当金繰入額	1	—
雑損失	190	258
営業外費用合計	346	406
経常利益	67,531	70,812
特別利益		
固定資産売却益	11	272
投資有価証券売却益	512	474
補助金収入	75	18
その他	—	1
特別利益合計	599	766
特別損失		
固定資産除売却損	299	177
減損損失	20	15
その他	0	4
特別損失合計	319	197
税金等調整前四半期純利益	67,811	71,381
法人税、住民税及び事業税	16,204	16,863
法人税等調整額	370	727
法人税等合計	16,574	17,591
四半期純利益	51,236	53,790
非支配株主に帰属する四半期純利益	359	359
親会社株主に帰属する四半期純利益	50,876	53,430

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	51,236	53,790
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△100	4,339
繰延ヘッジ損益	20	38
為替換算調整勘定	10,491	8,832
退職給付に係る調整額	176	155
持分法適用会社に対する持分相当額	46	104
その他の包括利益合計	10,634	13,469
四半期包括利益	61,870	67,260
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	61,536	66,645
非支配株主に係る四半期包括利益	333	614

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2025年5月12日開催の取締役会決議に基づき、自己株式2,283,900株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において単元未満株式の買取も含め、自己株式が23,502百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が55,683百万円となっております。

(会計方針の変更に関する注記)

(在外子会社等の収益及び費用の本邦通貨への換算方法の変更)

在外子会社等の収益及び費用は、従前、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、第1四半期連結会計期間より期中平均相場により円貨に換算する方法に変更しております。この変更は、在外子会社の重要性が増してきたため、一時的な為替相場の変動による損益等への影響を緩和し、在外子会社の業績をより適切に連結財務諸表に反映させるために行ったものであります。

当該会計方針の変更を遡及適用し、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。

この結果、遡及適用前と比べ、前第3四半期連結累計期間の売上高は6,432百万円、営業利益は1,420百万円、経常利益は1,762百万円、税金等調整前四半期純利益は1,761百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,389百万円それぞれ減少しております。

また、前連結会計年度の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより、利益剰余金の前期首残高は2,776百万円減少し、為替換算調整勘定の前期首残高は同額増加しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	12,530百万円	13,260百万円
のれんの償却額	36	54

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結財務 諸表 計上額 (注) 3
	水産食品 事業	海外即席 麺事業	国内即席 麺事業	低温食品 事業	加工食品 事業	冷蔵事業	計				
売上高											
日本	22,896	—	78,919	45,564	16,713	19,330	183,423	29,057	212,480	—	212,480
米州	—	175,874	—	—	—	—	175,874	—	175,874	—	175,874
その他	278	—	—	—	—	—	278	148	427	—	427
売上高 (注) 4	23,174	175,874	78,919	45,564	16,713	19,330	359,576	29,205	388,782	—	388,782
外部顧客への売上高	23,174	175,874	78,919	45,564	16,713	19,330	359,576	29,205	388,782	—	388,782
セグメント間の内部 売上高又は振替高	881	—	68	9	0	874	1,835	19	1,854	△1,854	—
計	24,056	175,874	78,987	45,574	16,714	20,205	361,411	29,225	390,636	△1,854	388,782
セグメント利益	792	42,945	8,599	6,199	346	1,835	60,720	910	61,630	△752	60,878

(注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に弁当・惣菜事業であります。

- 2 セグメント利益の調整額△752百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△736百万円、棚卸資産の調整額△25百万円及び他の調整額10百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。他の調整額は、主に営業外取引との相殺消去額であります。
- 3 セグメント利益は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。
- 4 売上高は主に顧客との契約から認識された収益であり、他の源泉から認識された収益の額に重要性はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

金額の重要性が乏しいため記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「国内即席麺事業」セグメントにおいて、つくばフーズ株式会社の全株式を取得したことにより、第2四半期連結会計期間より、同社を連結の範囲に含めております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては725百万円であります。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結財務 諸表 計上額 (注) 3
	水産食品 事業	海外即席 麺事業	国内即席 麺事業	低温食品 事業	加工食品 事業	冷蔵事業	計				
売上高											
日本	24,749	—	80,133	47,168	17,682	20,227	189,961	31,086	221,047	—	221,047
米州	—	181,120	—	—	—	—	181,120	—	181,120	—	181,120
その他	330	—	—	—	—	—	330	137	467	—	467
売上高 (注) 4	25,079	181,120	80,133	47,168	17,682	20,227	371,412	31,224	402,636	—	402,636
外部顧客への売上高	25,079	181,120	80,133	47,168	17,682	20,227	371,412	31,224	402,636	—	402,636
セグメント間の内部 売上高又は振替高	934	—	85	10	0	876	1,908	42	1,950	△1,950	—
計	26,014	181,120	80,219	47,178	17,683	21,104	373,321	31,266	404,587	△1,950	402,636
セグメント利益又は 損失 (△)	1,330	45,718	8,664	6,613	△443	2,389	64,273	1,064	65,338	△769	64,568

(注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に弁当・惣菜事業であります。

- 2 セグメント利益又は損失の調整額△769百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△809百万円、棚卸資産の調整額△59百万円及びその他の調整額99百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。その他の調整額は、主に営業外取引との相殺消去額であります。
- 3 セグメント利益又は損失は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。
- 4 売上高は主に顧客との契約から認識された収益であり、その他の源泉から認識された収益の額に重要性はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

金額的重要性が乏しいため記載を省略しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計方針の変更に関する注記) に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より在外子会社等の収益及び費用を期中平均相場により円貨に換算する方法に変更を行っております。なお、前第3四半期連結累計期間については遡及適用後の数値を記載しております。